



## 照葉樹林をテーマに フォーラムや清掃活動を実施



など、町内外から約150人が集まりました。

フォーラムでは専門家による研究の成果報告や本町と対馬の照葉樹林の比較などをテーマにした5つの講演が行われたほか、「照葉の森が育む山のくらし」と題したトークセッション、大学・研究機関や地元中学生らによるポスター発表が行われ、参加者間で意見交換や交流が図られました。

**公開フォーラム**  
森林総合研究所が本町の照葉樹林で調査を始めて30年が経過したことを記念して、11月30日、公開フォーラム「緩照葉樹林の生物多様性と恵み」が開催されました。

高年者研修センターには、現場で調査を行っている研究者や「緩照葉樹林プロジェクト」関係者

そのほか、川中神社に伝わる「綾神楽」の復元プロジェクトによる神楽舞の奉納や照葉樹林食文化を体感できる交流会、森林総合研究所の調査地の散策が2日間にかけて行われ、本町の照葉樹林の豊かさや恵みに触れるよい機会となりました。

**クリーンアッププロジェクト**  
照葉樹林クリーンアッププロ

ジェクト（24時間テレビチャリティー委員会主催）は12月1日、川中自然公園周辺ほかで行われました。町内外から参加した多くのボランティアがペットボトルなどや不法投棄された洗濯機などを回収、集まったごみは2トダンプ車1.5台分にもなりました。

清掃活動の後は早川農苑で有機野菜たっぷりの昼食をとり、多くの参加者から「来年もぜひ参加したい」との声が上がりました。次回は令和2年10月に計画されています。



## column

### ヒバカリ

首の後ろにある2本の白っぽい筋模様はトレードマーク。体が小さくおとなしい性格のヘビで、毒を持たず、人にかみついてもほとんどありません。それなのになぜか「かみついたらその日ばかりの命」という迷信があり、この名前が付けられました。

夜になると田んぼなど水辺の周りを動き回り、小さい体の割にカエルやオタマジャクシ、ミミズ、小魚類を食べ続ける大食漢としても知られています。秋には幼蛇と呼ばれる赤ちゃんが生まれてきますが、長さは15cmほどでミミズと変わらない大きさです。小さいからこそ、たくさん食べて一生懸命に命を繋いでいるのです。

